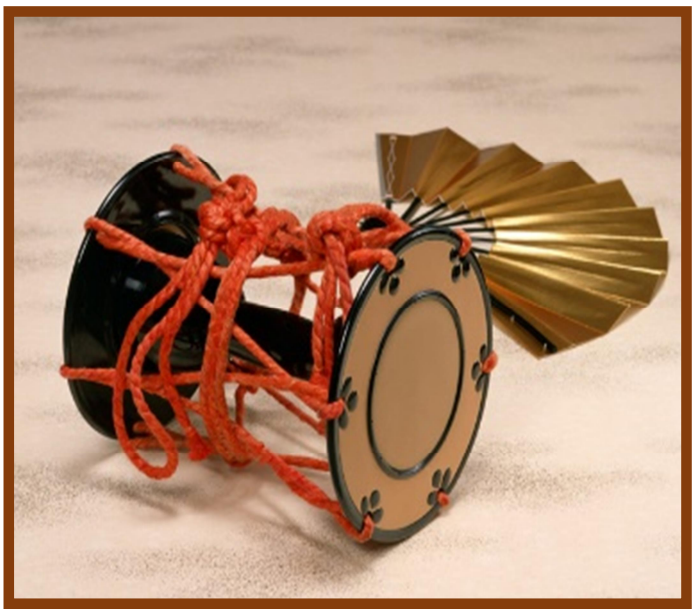
源 流　第１７５号　教育長　儘田　文雄

自立と共生　ー教育の方向性ー



近年、**「自立」**と**「共生」**が、障害福祉や高齢福祉などの分野でよく用いられます。私は、この二つの用語が、**教育全般の方向性を端的に示している**と捉えています。

教育といっても、家庭教育、学校教育、社会教育など、多岐にわたります。本号では、その基本を成す、家庭教育を取り上げます。

「自立」とは、自分の力で物事をやってゆくこと。子供が身の回りのことを一人でできるようになるには、親がまずやり方を教え、ほめ励ましながら、できるようになるまで見守ることが必要です。

肝心なのは、それを行うのが当たり前になる、いわゆる習慣化と価値の自覚です。学習に関しては、内容や方法を自ら決めて主体的に学べるよう、**「自立した学習者」に育てる**ことが肝心です。

一方の**「共生」とは、共に生きてゆくこと**。家族であっても、ものの見方や考え方、感じ方はそれぞれ異なります。日頃、家族が互いの違いを尊重し、望ましい関係を築こうとする姿に触れて学ぶ子供たちは、広く個性の異なる相手を受け入れ、認め合う素地を培っているものと考えます。

本市が推進中の「望ましい習慣の形成」。その５項目は、「自立」と「共生」を基盤としています。「規律ある生活を送る」と「健康な心と体をつくる」は「自立」、「人と進んで関わる」は「共生」、「主体的に学ぶ」と「喜びをもって働く」は、「自立」と「共生」のいずれにも関わります。

改めて、御確認いただきたく存じます。

素晴らしい社長

大成建設社長　里見泰男

「馬鹿利口」というのが一番素晴らしい社長じゃないですか、馬鹿みたいにみえているけれど本当は利口な人。「利口馬鹿」というのが一番困る。「利口利口」では付き合いきれないしね。

出典：「成功への名語録」（講談社編　講談社）

※　おおらかで思いやりが深く、ユーモアに富む。そうした人物像が浮かびます。